特集 アイヌ民族・文化を知る

豊浦のアイヌ民族・文化の地をたどる

国指定の景勝文化財ピリカノカ「カムイチャシ史跡公園」

カムイチャシは、豊浦町西部の礼文華地区と大岸地区の中間にある噴火湾に飛び出た岬上にあります。周囲は高さ約 30mの切り立った断崖であると同時に、江戸時代に「蝦夷三大難所」と呼ばれた「礼文華山道」が通る急峻な山を背にしています。

カムイチャシは、アイヌ文化と深いかかわりがあり、美しい景観を見ることができる景勝地「ピリカノカ」(「美しい・形」の意) として、平成 23 年に国によって指定されました。

北海道の地名の 8 割以上がアイヌ語に由来すると言われていますが、「カムイチャシ」という名前もまたアイヌ語からきている地名です。

「カムイチャシ」は、「カムイ」という語と「チャシ」という語に分けられ、日本語で直訳すると、「カムイ」は「神・精霊」、「チャシ」は「砦」あるいは「柵で囲った場所」という意味とされています。

「砦」という言葉から「戦い」を連想しますが、使われた年代や、どのように使われたのかは正確にはわかっていません。しかし、岬の先端部には、深さ 2m、幅約 16mの壕が掘られており、壕の内縁に沿って低く土が盛られています。また、握りこぶしほどの大きさで角のとれた石が集められた場所があり、こうした石は川原や海辺にある石であることから、人為的に岬の上に運ばれたものだと考えられます。このような人間活動の痕跡が見られることを踏まえて、カムイチャシはアイヌ文化の遺跡として登録されています。

まだまだある！アイヌ語由来の名所

昆布岳 KONBUDAKE

昆布岳は、今から 100 ～ 200 万年前頃に活動した火山で、羊蹄山をしのぐほど広い裾野を持つ成層火山で、標高は約 1045mあります。

山頂部にコブのようにポコンと突出しているため、アイヌ語で「コンポヌプリ」または「トコンポヌプリ」(こぶのような山の意味) と呼ばれ、そこから昆布の字をあてたものといわれています。

登山口から頂上まで約 3 時間、下り 2 時間の 5.7 kmのコースで、山頂からは有珠山や羊蹄山が見渡せる絶景が望めます。

美の岬 BINOSAKI

礼文華の西側に突き出した岬一帯の名ですが、海岸にそそり立つ大きな岩にはそれぞれ名がついています。西側からピカムイ (岩の神)、フレシュマ (赤い岩)、ポロピツ (大岩)、コッチャケチクシ (岩のすきまを通るところ)、ウトルチクシ (岩の間を通るところ) などの名が残っています。また、このあたりにナムワッカ (きれいな水が湧くところ) という地名もあります。